

研究課題の名称

補聴器に対する認識、継続使用、きこえの改善に関する研究

研究の目的及び意義

現在日本には 65 歳以上で 3 人に 1 人、75 歳以上では 2 人に 1 人が難聴と推定され、約 1 500 万人いると推測される。しかし、他の主要先進国と比較し、日本は補聴器所持率が 13.5 % と明らかに低いことが現状である。これは難聴者が適切な医療を受けていないことを示している。また近年、難聴をそのままにしておくことが、将来的な認知機能低下やうつ状態へつながるといった報告が散見され、難聴への早期介入が重要と考えている。高齢者の難聴の多くが加齢性難聴であり、補聴器の適応者は増加している一方で、難聴があるにもかかわらず、患者本人は難聴であることを自覚していないため検査を受けることもしていないケースや、せつかく補聴器を購入したがよく聞こえないからといって使用しなくなるケースが少なくないのも現状である。これには、患者側の難聴や補聴器に対する理解-知識不足も原因の一つであると考えられる。よって、患者教育をすることで、難聴へ早期介入の必要性を自覚し、補聴器継続使用につながるのではないかと考えた。

今回我々は、補聴器専門外来を立ち上げた。補聴器希望者を対象に、質問紙を用いて難聴・補聴器にたいする知識を確認することで、個々の患者さんの不明点をブラッシュアップし、的確に患者教育を行い継続的な補聴器装用につながるか検討する。さらに補聴器に対するイメージを調査することで、その後の補聴器装用のうまくいく患者傾向を解析する。また、質問紙を用いて補聴器装用によって、難聴による handicap の改善があるか、フレイルとの関係があるかを検討する。

研究対象者の選定方針

- ・ 適格基準

洛和会音羽病院の補聴器外来を受診した 18 歳以上の患者

- ・ 除外基準

両側 90dB 以上の感音難聴
者質問紙に回答できない者
同意が得られなかった者

研究予定期間

承認日（2019 年 11 月 27 日）から西暦 2022 年 3 月 31 日